midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

August 2014 No.378-379

８月号の１枚：間伐した材のデータをとる中学生

［巻頭言］森を守る事

山々の森林と言う生命の源が全て

「相模ダム」は、戦時中、「一億戦闘貫徹！」の大号令と共に、川崎重工業地帯に電気と工業用水を送るために建設された。川崎への水の取り口は、相模ダムと城山（津久井）ダムの中間の「沼本ダム」にある。沼本ダムの水面下に大水道管を配置し相模原市の地下を通して日量約57万トンの膨大な水が送られ、戦後も復興のためにこの用水は送り続けられたが今では、余剰が出てくるようになった。その余剰水を川崎市は、東京の大田区や世田谷区に回すようになっている。

一般に、東京都の飲料水が宮が瀬ダムや相模川（沼本ダム）からも供給されている事を知る人々は少ない。生命の水が富士山源流・流域の水である想いが、相模湖を拠点とする「富士源流～相模湾に至る流域」の森林に私を通わせる理由なのだ。

神奈川県は、平成19年度に目的税として年間約40億円を徴収し5年・4期に分けて総計約800億円と言う大金を投入して取り組んでいる。他県に例を見ない巨額の「かながわ水源環境の保全・再生事業」である。これが成功するかしないかが我が国の「森林・林業の復権」に掛かっている。この政策には、森林資源からお金を生み出し、消費を巡って森林に戻ってくると言う経済の循環対策が欠けるように感じている。世界第2位の森林率（68%）のわが国は、森林後進国と言われている。荒廃森林問題の解決の手掛かりは、「北欧・中欧の林業先進国」に学べばある筈だ。

東京スカイツリーの展望台からは、足元の大都会風景に心を奪われる。だが、その先を見て頂きたい。周囲を山並みがグルリ、取り囲んでいる。その山々の「森林と言う生命の源」が全ての生態系の守護人（神々）として存在している事を気付いてほしい。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2014.08

8月 3日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

8月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

7月6日（第一日曜日）

梅雨さなかですが、真夏のような日差しが照りつけ、木陰がよりいっそう涼しく感じます。今月の小原での活動では、ForestNova☆からは10名が参加。作業道やハイキングコースに雪害の影響で荒れているところがまだ残っていたので、それらの整理を行いました。

最初は作業道での整理。3つの班に分かれ、各自が自由に倒木の処理をしながら、上まで登っていきました。倒木の枝打ちをしたり、径路をつくったりと、不慣れな１年生や入ったばかりの人も、皆に教えてもらいながら、自身でも考え、行動をしていました。森の中部地点では、やっかいな倒木に遭遇。チェーンソーを用いてもなかなか根っこから切り出せず、悪戦苦闘を強いられました。13時頃、孫山に到着。木のベンチに座り、皆でお昼ご飯を食べました。頑張って登ったあとに皆で食べるご飯は、一段とおいしく感じられます。お昼のあとは、元の道に戻る班と、ハイキングコースの方へ行く2班に分かれました。元の道に戻る班では午前の残っていたところと、橋付近の径路整備。また、残っていた欠頂木3本をチェーンソーで伐り倒しました。3本を20分弱と早めに作業することができましたが、安全管理により気を配りつつ、効率よく作業をしたいです。一方のハイキングコースでは、同じく倒木や腐敗した大木を処理しながら、1時間かけて下りていきました。途中、嵐山や相模湖などが見渡せるところに行きつきました。その景色を見た瞬間、言葉では言い表せないほど感動したことを今でもはっきりと覚えています。写真や絵ではきっと表現しきれない、荒れる呼吸と滲む汗、痛みだす足の爪先に耐え、そこに挑戦した者にしか味わえない感動が、そこには確かにありました。山の麓に近づくにつれ、気温が上昇とともに、どっと疲れが襲ってきました。実際に歩くとたいへん時間と労力がかかる。これも森に行かないとわからないことです。

昔の私は森にほとんど興味がなく、見向きもしませんでした。そんな私が、今こうして活動に参加し、活動が終わったあともまた森に行きたいと思うのは、それだけ森に魅力があるからなのだと思います。活動していく中で得た知ったことや感じたことを、より多くの人に知ってもらいたい、実際に感じ取ってもらいたい。その一心で、これからも活動に励んでまいります。

世持　由美子（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

7月20日（第三日曜日）

夏休み前の日曜日。先月は期末試験のため姿の見えなかった高井戸中の生徒たちも大勢参加している。フォレストノバ、望星高校、里山農学校の若者、そして「国木会」からのメンバーも加わり総勢70名。

「国木会」とは工務店の立場から国産材の流通を促進させたいと考えている団体。緑のダムとは林業サプライチェーンの関連でつながっている。今日は活動の視察が目的。

里山農学校の若者はカブトムシ牧場の堆肥を使用している須藤農園さんが率いてきた。ふだん手入れをしている畑とは趣の違う森を味わいたいということで、多忙な斎藤体験学校長に代り私が嵐山を案内することに。せっかくだから山の天辺に行きましょう。ということで望星の森の脇から尾根にいたる道なき道を辿る。途中、「森はいったん成立すると生活するための養分は自らまかなうことができる。これを自己施肥能力といいます」などと畑と森との違いを話しながら山頂へ。山頂からの眺めはいまひとつではあったが、それでも眼下に相模湖、遠くに北都留三山の百蔵山を望むことができた。若者たちは満足してくれただろうか。

その間、お花畑班は暑さの中での除草や剪定（写真右上）、水やり、森林整備班は３～４ｍの丸太を30本ほど運び出す。生命の森宣言東京も整備班に加わりつつ、今後の活動計画を練っている模様。

一方、若者たちは…。フォレストノバは材降ろしと植生調査、午後からは基礎ゼミの学生を嵐山山頂へ案内したようである。望星高校は午前午後とも樹高、胸高直径測定のための下準備、樹々のナンバリング（写真右下）。高井戸中はスギ４本を間伐して木の長さ、直径を測っている（写真左上）。

さて、このところ注目の木工班であるが、こちらも大忙し。材の仮置き場建設のため、伐って２ヵ月ほどたった10m以上の丸太を数人で持ち上げて作業台に乗せたり、柱用の材の皮むきを行ったりともっぱら肉体労働が続く（写真右中）。基礎の位置も決まり、来月にはいよいよ棟あげ式とあいなるか。皆の期待はふくらむばかり。

夏の暑いさなかではあったが、今日もまた事故もなく各班、若者も年配者も元気に作業に取り組んでいる。傍らでオカトラノオ（写真左下）やオオバギボウシの白く清楚な花が見守っていた。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告1]
さがみはら環境まつり、参加報告１

６月２９日（日）、第１０回さがみはら環境まつりが開催された。主催は環境まつり実行委員会（相模原市環境政策課、相模原市立環境情報センター）。会場は小田急「相模大野駅」から徒歩３分ほどのボーノ相模大野サウスモール３Ｆユニコムプラザさがみはら。

このイベントは環境に様々な形で関わる団体がそれぞれのブースで活動の様子を展示するもの。そのほかに写真コンテストや講演会、パネルシアター、トークショーなどもあり、内容は盛りだくさんである。今回は４３団体が出展。当会と近しい団体では「相模湖森・モノづくり研究所」「学生連合フォレストノバ」「全国森林インストラクター神奈川会（JFIK）」が参加した。

当会もその活動理念とこれまでの活動実績をパネルで紹介。私は JFIK からただ一人の参加だったため、そちらの方の準備に掛かりきりになってしまったが、二つ向こうのブースで石村さんが立派な木の看板（木工班・松尾さん作製？）を立て掛けている姿が目に入った。お隣の「森・モノ研」の丸茂さんと淵上さんは森のカルタをパネルに貼りつけたり、森のパズルをテーブルに並べたりする作業に余念がない。さすがにどちらも初参加のＪＦＩＫよりよい出来栄えだ。フォレストノバは体験コーナーでネイチャークラフトを行う模様。

10時半、いよいよ開場。交通が至便、宣伝が行き届いていることもあり、次々に来場がある。子供たちから年配者まで、大勢の方々が各ブースに立ち寄り、興味深そうに眺めたり、話をしたりして大賑わい。子供たちはスタンプラリーがお気に入りで、まるで蜜蜂のようにブースを巡っている。私は環境プログラムコンテストである「ＳＵＳコン」のコーナーにも出なくてはならず、行ったり来たり。そのせいでスタンプラリーに穴があく。ごめんなさい。お隣の森のパズルは子供たちに大人気。

団体のブースもパソコンの映像を使用するなど、それぞれに工夫が凝らされているのが印象的だった。

イベントは交通の便がよいこともあり、３０００名もの来場者があったという。会の存在、活動を広く知ってもらうにはよい機会であり、他団体との交流を図る場としても貴重である。なお、自分たちの活動紹介の多い中、クラフト制作を通じて森の大切さを真剣に訴えていたフォレストノバの姿勢を高く評価する意見があったことを付け加えておく。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告2]
さがみはら環境まつり、参加報告２

近頃は日差しがだんだんと強まりつつも空模様は安定せず、たくさんの表情を見せてくれています。

さて、先月の29日に相模原市南区にあるユニコムプラザさがみはらで、さがみはら環境まつりが開催されました。環境まつりは今年で10周年、ForestNova☆も毎年出展させて頂いております。

今年は、さがみはら環境まつり実行委員の方からの強い要望もあり、体験系ブースとして、自分達が倒した間伐材の端材を用いたカードスタンドづくりと、ForestNova☆の概要や、どこで、どのような活動を、どうして行っているのかをまとめたパネルの展示をしました。また、環境まつりの参加者が森林に対してどのような意識を持っているかを知るため、質問や感想を求めるためのアンケートを行いました。

今年度は、南区の方も参加者として巻き込みたいとの事から、昨年度とは場所が変わり、緑区にあるミウィ橋本から、南区にあるユニコムプラザさがみはらでの開催となりました。昨年と比べ、若干場所がわかりにくい場所だったため、参加者が昨年よりも少なくなるのではと懸念しておりましたが、当日は木工体験者数65名と、予想以上に多くの方が体験に参加して下さりました。中には写真をホームページに使って欲しい、お金払ってでもやると言ってくれた子供たちもいて、とても嬉しく思っています。

また、今年もSUSコンにも参加しました。森で行う動植物の擬態や、種類の違い、個性についてなどのプログラムを発表し、結果は入賞という形になりました。

今回のイベントでは、参加してくださった方々と「会話する」ということを重視し、パネルは私たちのことを知ってもらうこと、木工体験は今回の思い出を形に残してもらうことを大切にしていました。しかし、事前段階の共有不足等の準備不足もあり、当日は木工作業の補助が中心となり、話をすることがおろそかになってしまいました。

次回はこの反省をいかし、イベントに参加してくださった方も、自分達も、満足できるような企画が出来ればと思います。

いつも一緒に活動してくださっている皆様には本当にお世話になっています。私たちは、日々周りにいるたくさんの方々と関わり、助け合っている。私にとっては、そのことを改めて感じたイベントとなりました。様々な方との関わりの大切さや楽しさを、もっとたくさんの人と共有し、伝え、つながっていきたいと、心から思います。

川﨑　茜音（Forest Nova）

[報告3]
相模湖・嵐山訪問記

地下鉄・中央線を乗り継いで相模湖駅に9時１５分着。幸いにも雨は降りそうに無いが、やたら蒸し暑い。日本の高度成長を支えたというダムを渡り嵐山に。蝉の声にはまだ早いが、代わりに、山と緑と自然を愛する老若男女の笑顔。元気さと陽気さに圧倒されつつ、山に入り作業開始。急斜面での丸太出しで、あっという間に汗だく。周りはそれでも、笑顔。昼には美味しい汁を頂き、また笑顔。こんな調子で、時間はたちまち過ぎていく。

杉の林は、とても手入れされている。「森を作る・森を生かす・森をつなぐ」、言葉で言うのは簡単だが、森を思う心と、地道な努力なくして語れない。日本は先進国に先駆け少子高齢化社会に入った。同様に、生産年齢人口の減少。人間中心の持続可能な成熟化社会の構築には、林業再生が絶対条件になると確信する。森林は山を守り、水を蓄え、海を育む、究極のエコシステム。下支えする方々と接し、改めてこの重要性を痛感した。

林業の労働条件を３Ｋ職場とよく言うが、あえて４Ｋと呼ばして頂く。最後のＫは「気持ち良い」。

そして帰り道、カドヤでまた笑顔・笑顔。

大隅　功（国木会）

[報告４]
小菅村林業研修を実施

７月末に山梨県小菅村にて「若者の森づくり、林業研修」を実施しました。今回も北都留森林組合とNPO多摩源流こすげのスタッフ指導のもと、間伐と作業道（散策路）づくりを指導していただきました。まずは北都留森林組合の中田無双さんから紙芝居形式で森のおはなしをしていただきました。絶滅危惧種のニホンカモシカの生息数よりも林業従事者のほうが少ないという話には子どもたちもびっくり。

そしていよいよ作業です。間伐自体は普段から行っていて、その段取りは理解しているつもりでした。しかしながら、小径木ながら高さがあるスギ、ヒノキを倒していくと毎回のように掛かり木になりそうになっていきます。この状況は今年から取り組んでいる区画によく似ていてどのように処理していくか、ということに大きな関心をもてました。

４班にわかれて作業を行いましたが、ある班で高いところがかかってしまい、押せど引けどの状態になってしまい、普段なら下手をすると半日つぶしてしまいそうな状況がありました。しかし、中田さんが片側の受け口を少しけずり、丸太をまわすように、と引くとまるで魔法がかかったようにするりと木が倒れていきました。これには驚きました。やはりまだまだ、まだまだまだ知らない技術が多く、勉強も経験も足りないことを実感しました。さらに子どもたちが感動していたのは、またマニアックなポイントですが、木登り器という木にひっかける簡易の足場で、今回はロープを高い位置につけるのにつかいましたが、ムカデはしごの天辺で設置すればさらに高い位置の枝を打てると聞いてさっそく買う気になっていました。

午後からは切った間伐材の皮をむき、くさりかかった歩道の丸太を引き抜き、代わりに新しい丸太に置き換えていきました。普段の活動でも作業道については取り組みたいと思っていた矢先だったので、そのノウハウは参考になりました。

子どもたちの感想でもさっそく自分たちの森でも試してみたいという記述がみられ、またやることが増えちゃったなという思いとまた新しい目標ができ、やりがいを感じています。

今回で林業研修は３年目になりますが、毎年毎年さまざまな作業を教えていただき、林業の奥深さに感動するばかりです。夏休みのまとまった時間を利用しての研修ですが、今後は相模湖嵐山の森でもこのようなプロの方からの指導をいただけるような機会をつくっていきたいと思います。また、参加した子どもたちの感想は来月号でご紹介したいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版